

令和7年度

委託第 25 号

おいらせ町下水道施設等  
包括的管理業務委託

仕様書

おいらせ町 全域 地内

## 目次

1.	おいらせ町下水道施設等包括的管理業務委託共通仕様書	2～3	P
2.	公共下水道・古間木山地区農業集落排水マンホール ポンプ保守管理業務特記仕様書	4～5	P
3.	公共下水道・古間木山地区農業集落排水マンホール ポンプ清掃業務特記仕様書	6	P
4.	古間木山地区農業集落排水処理施設維持管理業務 特記仕様書	7～9	P
5.	下水道管渠清掃業務（公共・農排）特記仕様書	10～14	P
6.	流域下水道接続点水質検査業務特記仕様書	15	P

## 1. おいらせ町下水道施設等包括的管理業務委託共通仕様書

### 1. 件名

おいらせ町下水道施設等包括的管理業務委託

### 2. 目的

本仕様書は、おいらせ町が管理する下水道施設等を円滑に運営するため、その業務委託において必要な事項を定める。

### 3. 業務の履行

- (1) 受注者は、契約書、共通仕様書、特記仕様書及びその他の指示事項、関係法令の規定に基づき、能率的かつ経済的に業務を完全に履行しなければならない。
- (2) 受注者は、発注者の指示に従い、相互に協調して、業務を円滑に遂行しなければならない。
- (3) 受注者は、本仕様書に定めのない事項及び指示されていない事項についても、業務遂行上、必要な場合には、良識ある判断に基づいて実施するものとする。
- (4) 受注者は、業務を包括的に委託することから、業務従事者に必要な資格者を配置し、適正に業務を遂行する体制を整えるものとする。
- (5) 受注者は、常に安全衛生管理に留意し、労働災害の防止に努めるものとする。
- (6) 受注者は、業務上知り得た機密及び個人情報について、他に漏らしてはならない。委託業務終了後も同様とする。

### 4. 履行期間

履行期間は、令和7年4月1日から令和9年3月31日までとする。

### 5. 業務対象施設の名称及び所在地

受注者が業務を履行する施設の名称及び所在地は特記仕様書のとおりとする。

### 6. 業務の内容

業務の内容は特記仕様書のとおりとする。

### 7. 提出書類

別表「提出書類一覧表」及び特記仕様書のとおりとする。

## 8. 代金の支払い

代金の支払いは、四半期払いとする。業務報告書の内容を確認後、受注者からの請求により支払うものとする。

## 9. 疑義等

本仕様書に明記されていない事項又は疑義を生じた場合は、発注者又は受注者が協議の上で定めるものとする。

## 10. その他

(1) この契約は地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 234 条の 3 に規定する長期継続契約であるため、発注者はこの契約を締結した会計年度の翌年度以降において、歳出予算におけるこの契約の契約金額について減額又は削減された場合には、この契約を変更又は解除することができる。

① (1) の場合において、この契約を変更又は解除しようとするときは、速やかに受注者に通知するものとする。

② (1) の規定によりこの契約が変更又は解除された場合において、受注者に損害が生じたときは、発注者は受注者に対して損害賠償の責を負う。この場合における賠償額は発注者と受注者とが協議して定める。

(2) 業務期間中は、基本的に最低賃金及び社会保険料等（以下「最低賃金等」という。）の変動による変更契約は要しないものとする。ただし、最低賃金等が大きく変動したことにより、最低賃金等の確保が困難となる場合は、発注者と受注者が協議により変更契約できるものとする。

## 2. 公共下水道・古間木山地区農業集落排水マンホールポンプ保守管理業務 特記仕様書

### 1. 業務対象施設の箇所数及び所在地（表 1 及び表 2 を参照）

公共下水道マンホールポンプ : 29 箇所

流量計 : 1 箇所

農業集落排水マンホールポンプ : 14 箇所

### 2. 業務内容

この契約での保守管理とは、ポンプ・流量計及び付帯設備の定期点検等を行い、ポンプ機能の適正な維持を保全するものである。また、故障等の緊急時に行う緊急管理も含まれる。

### 3. 管理方法

#### （1）定期点検

受注者は年 4 回、管理技術者を派遣し、次の保守点検を行う。ただし、以下の 6 箇所は 1 ヶ月に 1 回の保守点検を行う。

〈下前田・明神川・深沢・洋光台・一川目 2 号・流量計〉

また、④のポンプ引き上げ点検は、年 2 回行う。それ以外の点検月は、ポンプを引き上げず目視により確認を行う保守点検とする。

①ポンプの保守点検。振動・騒音の有無、作動状況の確認、レベルスイッチの点検調整を行う。

②電気設備・流量計の保守点検。絶縁状況、腐食の有無、電圧・電流の確認を行う。

③緊急通報（電話）設備の保守点検。電話回線の状況確認、緊急通報の作動確認を行う。（要：電気工事士）

④ポンプを引き上げて状態を確認し、老朽化やオーバーホールの時期が近付いていると思われるときは発注者に報告すること。

⑤槽内設備の正常な運転を確保するために槽内の除砂やスカム除去及び異物の除去を行う。槽内の状況から清掃時期を判断する。また、異物の撤去時には交通誘導員を配置し、安全措置を講ずること。

⑥上記の点検時期については、受注者は、事前に実施予定表を提出し、発注者の承諾を得たうえで行うこと。

## (2) 緊急管理

受注者は、定期点検とは別に緊急通報及び発注者の要請により、その都度、受注者の管理技術者を派遣し、緊急管理を行う。

停電、異常高水位、故障の緊急通報があった場合は、発注者に連絡し、速やかに対処しなければならない。

集中豪雨、停電等により、ポンプ槽内の汚泥が汲み上げられず、マンホール外にあふれる可能性がある場合は、発注者と協議のうえでバキュームカー等により汲み取りを行う。(緊急事態のため早急に対応すること。)

なお、緊急管理費は本委託の範囲内とする。

## (3) 修理等

受注者は、定期点検・緊急管理の結果、修理等を要する場合は、事前に発注者の承諾を得てから行わなければならない。

## 4. 報告

受注者は、定期点検・緊急管理を行ったときは、点検記録票を作成して発注者に提出し、その確認を受けるものとする。

- ・ 報告鏡文書様式      別紙 1
- ・ 点検記録様式      特に定めなし (各ポンプ、総括表等)

### 3. 公共下水道・古間木山地区農業集落排水マンホールポンプ清掃業務 特記仕様書

#### 1. 業務対象施設の箇所数及び所在地（表 1 及び表 2 を参照）

公共下水道マンホールポンプ : 29 箇所  
流量計 : 1 箇所  
農業集落排水マンホールポンプ : 14 箇所

#### 2. 業務内容

##### （1）清掃回数（表 1 及び表 2 を参照）

公共下水道マンホールポンプ : 22 箇所× 2 回／年＝44 回  
公共下水道マンホールポンプ : 7 箇所× 3 回／年＝21 回  
流量計 : 1 箇所×12 回／年＝12 回  
農業集落排水マンホールポンプ : 14 箇所× 3 回／年＝42 回  
合計 119 回／年

##### （2）清掃方法

①揚泥車によるマンホール内の汚物の吸水、吸泥を行う。

※公共下水道マンホールポンプで発生した汚泥は産業廃棄物となるので産業廃棄物収集運搬業者で収集運搬をすること。

※農業集落排水マンホールポンプで発生した汚泥は一般廃棄物となるので一般廃棄物収集運搬業者で収集運搬をすること。

②高圧洗浄車によるマンホール内の高圧水洗浄を行う。

③揚泥車またはポンプによる洗浄水の除去を行う。

④作業員がマンホール内に入る必要が生じた場合は、労働安全衛生法に定める「酸素欠乏場所」となるので、法令で定められた酸欠防止措置をとること。  
（要：酸素欠乏危険作業主任者）

⑤車道にマンホールがあるところで作業するときには、2 人以上の交通誘導員を配置し、安全措置を講ずること。

⑥上記の清掃時期については、受注者は、事前に実施予定表を提出し発注者の承諾を得たうえで行うこと。

#### 3. 報告

- ・報告鏡文書様式 別紙 1
- ・写真添付 清掃前、清掃作業中、清掃後

## 4. 古間木山地区農業集落排水処理施設維持管理業務特記仕様書

### 1. 業務の履行場所の所在地

業務の履行場所の所在地は、上北郡おいらせ町若葉九丁目 140-55 地内とする。

### 2. 業務の内容

業務の内容は次のとおりとし、詳細は維持管理要領のとおりとする。

- (1) 日常点検に関すること。
- (2) 保守点検に関すること。
- (3) 水質検査に関すること。
- (4) 汚泥処分に関すること。
- (5) 環境整備に関すること。
- (6) 打合せ業務に関すること。
- (7) その他緊急時の運転に関すること。

### 3. 遵守事項

遵守事項は、次のとおりとする。

- (1) 受注者は、本業務の遂行にあたり、本仕様書はもとより浄化槽法、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、労働安全衛生法、道路交通法、その他関係法令等を遵守し、作業が円滑に進捗するよう努めなければならない。
- (2) 受注者は、施設の機能を定常的に維持するために、発注者と密接な連絡をとりながら、適切な運転操作を行わなければならない。
- (3) 受注者は、発注者及び第三者所有施設へ損害を与えたり、汚染や悪臭被害並びに第三者へ損害を与えたりすることの無いよう努めなければならない。
- (4) 受注者は、各種機器・工具類等の盗難の防止に努めなければならない。
- (5) 受注者は、全各項に係る問題が生じた場合、受注者の一切の責任で解決しなければならない。

### 4. 有資格者

業務に必要な資格者は、次のとおりとする。

- (1) 浄化槽管理士（浄化槽法第 45 条）
- (2) 浄化槽技術管理者（浄化槽法施行規則第 8 条）
- (3) 浄化槽清掃技術者（浄化槽法施行規則第 11 条）
- (4) 第二種酸素欠乏危険作業主任者（酸素欠乏症等防止規則第 11 条）
- (5) 消防設備士（消防法第 17 条）



## 5. 従業員の届出

受託者は、従業員の氏名・年齢・住所・経歴・資格等を書類により、委託者に届け出なければならない。

## 6. 従業員の能力基準

受注者は、業務を履行するにあたって、次に掲げる能力を有する者を従事しなければならない。

- (1) 管理技術者 業務全体の現場総責任者として、高度な技術を有し、かつ管理能力のある者
- (2) 技術者 高度な技術を有し、かつ保守点検の専門職としての確かな判断のできる者
- (3) 技能員 電気・機械等の技術能力を有し、かつ保守点検のできる者
- (4) 作業員 清掃等の作業能力のある者

## 7. 管理技術者の職務

管理技術者の職務は、次のとおりとする。

- (1) 契約書等の関係書類により、業務の目的・内容を十分に理解し、業務を遂行すること。
- (2) 常に状況を把握し、緊急時に直ちに従業員に連絡し、対処できる体制を整えること。

## 8. 書類の提出

受注者は、業務を遂行するにあたって、次に掲げる書類を作成して、発注者に提出し、その確認を受けるものとする。

- (1) 従業員名簿 契約後の5日以内
- (2) 管理技術者届 //
- (3) 業務報告書 翌月の5日以内
- (4) その他提出を求められた書類 その都度

## 9. 維持管理

- (1) 受注者は、業務を遂行するにあたっては、各種機器の機能を十分理解し、適正に管理しなければならない。
- (2) 受注者は、集中豪雨・停電等の緊急時にあたっては、すみやかに処理施設に出勤し、復旧作業を行わなければならない。また、緊急作業費は本委託費の中で行うものとする。

- (3) 受注者は、各種機器が正常に作動するように定期的に点検整備を行わなければならない。この場合において、当該機器に異常をきたしたときは、直ちに発注者に報告しなければならない。

#### 10. 修理

受注者は、各種機器の点検により発見した破損箇所のうち、備え付け工具、支給材料等を用いて処理できるものについては、発注者に報告のうえ処置するものとする。ただし、緊急を要する場合は、直ちに応急処置を行い、速やかに発注者に報告するものとする。

## 5. 下水道管渠清掃業務（公共・農排）特記仕様書

### 第1章 総 則

#### 1. 適用範囲

- (1) 本特記仕様書は、おいらせ町（以下、当町という。）が管理する下水道管路施設内の清掃工に適用する。
- (2) 図面及び仕様書に記載された事項は、本特記仕様書に優先する。
- (3) 本特記仕様書及び図面（以下、設計図書という。）に疑義が生じた場合は、発注者と受注者との協議により決定する。

#### 2. 用語の定義

- (1) 指示とは、発注者の発議により、監督員が受注者に対し、監督員の所掌事務に関する方針、基準、計画等を示し、実施させることをいう。
- (2) 承諾とは、受注者の発議により、受注者が監督員に報告し、監督員が了解することをいう。
- (3) 協議とは、監督員と受注者が対等の立場で、合議することをいう。

#### 3. 業務の履行場所

令和7年度 実施箇所：発注者が指定した設計図書等に記載された箇所とする。

令和8年度 実施箇所：令和7年度内に協議を行い、決定した箇所とする。

【令和8年度実施予定の概算数量：延長 9,800m、枿清掃箇所数 490 個】

#### 4. 提出書類

- (1) 受注者は、各年度の作業着手前に次の書類を提出し、承諾を受けたいえ、作業に着手すること。
  - ①現場代理人及び主任技術者届
  - ②工 程 表
  - ③職務分担表
  - ④緊急連絡届
  - ⑤清掃作業計画書
  - ⑥清掃土砂運搬車両使用届
  - ⑦酸素欠乏危険作業主任者届

（酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者技能講習修了証の写しを添付のこと）
- (2) 提出した書類の内容を変更する必要がある時は、ただちに変更届を提出すること。

(3) 受注者は、作業が完了した時は、速やかに次の書類を提出すること。

①年度完了届

②出来高調書

③作業記録写真（第1章「8. 作業記録写真による」）

④完了図書1式

(4) 前記各項のほか、監督員が提出するように指示した書類は、指定期日までに提出すること。

## 5. 官公署への手続き

受注者は、各年度の作業着手前速やかに関係官公署等に、作業に必要な道路使用、交通の制限等の届出、または許可申請を行い、その許可を受けること。

## 6. 現場体制

(1) 受注者は、各年度の作業着手前速やかに代理人、並びに清掃の技術及び経験を有する主任技術者を定めるとともに、現場に主任技術者を常駐させて、所定の業務に従事させること。

(2) 管路内の作業を行う場合は、酸素欠乏危険作業主任者を定め、現場に常駐させ、所定の業務に従事させること。

(3) 受注者は、善良な作業員を選定し、秩序正しい作業を行わせ、かつ、熟練を要する作業には、相当の経験を有するものを従事させること。

(4) 受注者は、適正な作業の進捗を図るとともに、そのために十分な数の作業員を配置すること。

## 7. 地先住民等との協調

(1) 受注者は、作業の事前準備として、文書、チラシ等により作業周知を徹底すること。

(2) 受注者は、作業を実施するにあたり、地先住民等に作業内容を説明し、理解と協力を得ること。

(3) 受注者は、地先住民等からの要望、もしくは地先住民等と交渉があった時は、遅滞なく監督員に申し出て、その指示を受け、誠意をもって対応し、その結果をすみやかに報告すること。

(4) 受注者は、いかなる理由があっても、地先住民等から報酬、または手数料を受け取ってはならない。

なお、下請負人及び使用人等についても、上記の行為の内容について、十分監督指導すること。

(5) 使用人等が前項の行為を行ったときは、受注者がその責任を負うこと。

## 8. 工程管理

- (1) 受注者は、あらかじめ提出した工程表に従い、工程管理を適正に行うこと。
- (2) 予定の工程表と実績に差が出た場合は、必要な措置を講じて、作業の円滑進行を図ること。
- (3) 受注者は、毎月末、出来高報告書及び清掃土砂発生量報告書により、作業の進捗状況を監督員に報告すること。
- (4) 土曜日・日曜日・祝日等の休日は、作業を行わないこと。日程の都合上、休日に作業を行う必要がある場合は、あらかじめ、その作業内容、作業時間等について、監督員の承諾を得ること。

## 9. 作業記録写真

受注者は、次の各項に従って、作業記録写真を撮影し、作業完了時には、工種ごとに工程順に編集したものを、作業記録写真帳に整理し、完了届に添付して監督員に提出すること。

- (1) 管渠内から、作業前後の状況を同一方向で撮影すること。ただし、管渠内からの撮影が困難な場合は、他の適切な方法で撮影を行うこと。
- (2) 人力または機械の別による作業状況を、背景を入れて撮影すること。
- (3) 写真には、作業件名、撮影場所、撮影対象及び受注者名を明記した黒板を入れて撮影すること。
- (4) 1枚の写真では、作業状況が明らかにならない場合は、貼り合わせすること。
- (5) 写真は、原則としてカラー撮影とし、その大きさはサービス版とすること。

## 10. 廃棄物

下記の廃棄物処分場は設計積算上での条件明示であり、処分場を指定するものではない。ただし、下記の廃棄物処分場以外で処理する場合は、監督職員の承諾を得ること。

〔廃棄物処分場〕 奥羽クリーンテクノロジー（株） 青森県八戸市豊洲 3-19

## 第2章 清 掃 工

### 1. 一般事項

- (1) 受注者は、清掃作業計画に作業箇所、作業順序等を定め、事前に監督員に報告した上で作業に着手すること。
- (2) 清掃作業においては、公共柵（場合によってはマンホール）を開放し実施すること。また、開放する公共柵及びマンホールの箇所について、監督員と協議

の上作業を行うこと。現地にて公共柵の位置等が確認できない場合は、監督員から確認をとること。

- (3) 作業にあたっては、管口を痛めないようにガイドローラを使用するなど、必要な保護措置を講じ、下水道施設に損傷を与えないよう十分留意すること。
- (4) 作業にあたり、仮締切を必要とする場合は、監督員の承諾を得ること。この仮締切は、上流に溢水が起こらない構造で、かつ、作業中の安全が確保されるものとする。ただし、上流に溢水が生じる恐れがある時は、ただちにこれを撤去すること。
- (5) 受注者は、作業にあたり、騒音規制法、振動規制法等の公害防止関係法令に定める、規制基準を遵守するために必要な措置を講ずること。
- (6) 受注者が監督員の指示に反して、作業を続行した場合及び監督員が事故防止上危険と判断した場合は、作業の一時中断を命ずることがある。
- (7) 作業にあたり、道路その他工作物を、搬出土砂等で汚損させないこと。万一、汚損させた場合は、作業終了の都度、洗浄・清掃すること。
- (8) 作業終了後はすみやかに使用機器、仮設物等を搬出し、作業場所の清掃に努めること。

## 2. 清掃及び調査工

- (1) ノズル付カメラでの清掃及び破損箇所等の確認を実施すること。
- (2) 作業時間、作業範囲等  
作業にあたっては、道路使用許可条件を遵守して施工すること。
- (3) 土砂等の流下防止  
作業にあたって、下流側に土砂等を流出させてはならない。万一、下流側に土砂を流出させた場合は、影響区間の流出土砂を受注者の責任で取り除くこと。作業区間にマンホールポンプがある場合は、特に留意し作業を実施すること。
- (4) 土砂等の積込み、運搬
  - ①受注者は、作業にあたって、十分な運搬車両を配置すること。
  - ②運搬車両は、事前に当町に届出を行うこと。
  - ③運搬車両は、その使用にあたって、土砂の流出・飛散、並びに臭気の漏洩のおそれのない構造の車両とすること。
  - ④積み込みにあたっては、土砂等の飛散により、通行者及びその他工作物を汚損させないように措置を講ずること。
  - ⑤土砂等の運搬にあたっては、水切りを十分に行い、途中漏落しないような措置を講ずること。
  - ⑥土砂の運搬にあたっては、積載超過のないようにすること。

(5) 土砂等の処分

公共、農排ともに土砂は産業廃棄物扱いとしているため、土砂処分が証明できるものを完了図書に添付すること。

(6) 機械による洗浄作業

高压洗浄車の使用にあたっては、高压により、管きょを損傷することのないよう、吐出圧に留意すること。

3. 報告書

(1) 調査結果は、報告書を作成し提出すること。

(2) 調査結果をテレビモニターからDVD等に収録する場合は指定の一般用DVD等に収録すること。

なお、提出するDVD等及び写真には、件名、地名、路線番号、継手番号、管径、並びに距離等をタイプ表示すること。

(3) 提出する成果品は、次のとおりとする。

①報告書

②不良箇所写真帳

③DVD等（テレビカメラ調査の場合）

④その他監督員の指示するもの

第3章 そ の 他

1. その他

(1) 作業箇所において、下水道施設に破損、不当沈下、腐食、不明水の流入等の異常を発見した場合はすみやかに監督員に報告すること。

(2) 作業箇所において、下水道施設への誤接合等を発見した場合は、すみやかに監督員に報告すること。

(3) 設計図書に特に明示していない事項であっても、作業遂行上、当然必要なものは受注者の負担において処理すること。

(4) 多少の変更については契約の範囲内とする。

(5) その他特に定めのない事については、速やかに監督員に報告し、支持を受けて処理すること。

## 6. 流域下水道接続点水質検査業務特記仕様書

### 1. 水質検査実施箇所（別紙図面参照）

#### ①県報告 7箇所

・R-4、R-6（1）、R-8、R-10、R-15、RS-1、S-1

#### ②その他流域接続点 6箇所

・R-5、R-6（2）、R-7、R-11、R-12、R-13

### 2. 水質検査実施回数

実施時期	区分	内容	回数
上期（4月実施）	本検査	①県報告 7箇所 ②その他流域接続点 6箇所	13回
	再検査	水質不良箇所	2回
	事業所	流量等により判断	1回
下期（10月実施）	本検査	①県報告 7箇所	7回
	再検査	水質不良箇所	6回
	事業所	流量等により判断	1回

※再検査（水質不良箇所）回数については、必要に応じて調整する。

### 3. 分析項目

6項目（外観、PH、BOD、SS、沃素消費量、ノルマルヘキサン抽出物質含有量）

### 4. 水質検査手順

- （1）流域下水道への接続点での採水（1日で全箇所を採水）。
- （2）採水は雨の影響の少ない日を選んで行う。
- （3）水質の分析は下水の水質の検定方法等に関する省令（昭和37年厚生省、建設省令第1号）に規定する方法。（報告書、写真を含む）
- （4）水質検査報告は、翌月とする。  
採取する時間帯については、担当者と協議をして決めること。
- （5）県報告の7箇所については、水質基準を上回った箇所分再採水行う。
- （6）事業所については、指示した汚水桝から採水する。
- （7）事業所等の採水において、休日に採水を行う場合もある。